

研究成果報告書

遺伝子導入骨髄幹細胞移植を用いた新たな炎症 性腸疾患治療法開発の基礎検討

課題番号：17590633

平成17年度—平成19年度科学研究費補助金
(基盤研究(C)) 研究成果報告書

平成20年5月

研究代表者 藤山佳秀

滋賀医科大学医学部教授

滋賀医科大学附属図書館



2007015778

研究目的と概要

腸管粘膜の再生において重要な役割を果たしている間質系細胞の一つ筋線維芽細胞に着目し、骨髄幹細胞由来の腸管筋線維芽細胞の存在を証明することを目指して研究を進めた。動物モデル骨髄移植の系を用いて、骨髄幹細胞に粘膜再生誘導因子遺伝子を導入し腸管局所における粘膜再生機転での骨髄幹細胞の役割を明らかにすることができると考えた。臨床応用にむけ IBD 自然発症動物モデルを用いて単なる骨髄移植ではなく、骨髄幹細胞に粘膜再生遺伝子を導入しクローン病の新たな治療法の確立を目指した。

研究組織

研究代表者：藤山佳秀（滋賀医科大学医学部教授）

研究分担者：安藤 朗（滋賀医科大学医学部講師）

交付決定額(配分額)

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
平成 17 年度	2,200,000	0	2,200,000
平成 18 年度	1,000,000	0	1,000,000
平成 19 年度	500,000	150,000	650,000
総計	3,700,000	150,000	3,850,000

研究発表

(1) 雑誌論文

1. Shioya M, Andoh A, Kakinoki S, Nishida A, Fujiyama Y. Interleukin 22 receptor 1 expression in pancreas islets. *Pancreas*. 2008 Mar;36(2):197-9.
2. Nishida A, Andoh A, Shioya M, Kim-Mitsuyama S, Takayanagi A, Fujiyama Y. Phosphatidylinositol 3-Kinase/Akt Signaling Mediates Interleukin-32{alpha} Induction in Human Pancreatic Periacinar Myofibroblasts. *Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol*. 2008 Mar;294(3):G831-8.
3. Akira Andoh, Shigeki Bamba, Mairi Brittan, Yoshihide Fujiyama and Nicholas A. Wright. Role of intestinal subepithelial myofibroblasts in inflammation and regenerative response in the gut. *Pharmacology & Therapeutics*. 2007 Apr;114(1):94-106.

(研究成果による産業財産権の出願・取得状況)

なし